

「今、私の晴雨計は！<sup>③⑥</sup>」

「私のアンドリユー・  
ワイエス考」

平 山 征 夫

ワイエスについてもう少し書こうと思う。知事時代こんなことがあった。阪神淡路地震の発生のため兵庫県立美術館で予定していた「ワイエス展」の開催が出来なくなったと聞いて、新潟県立近代美術館で代わって開催したいと申し出たところ、既に福島県立美術館で決まっていた。その背景には同美術館がワイエスの絵を既に何点も所蔵していたからだ。それから数年後、新潟出身で会社経営のNさんから北方博物館の伊藤文吉さん経由で「ワイエスの絵を個人所有しているが、自宅で

は保存上問題があるので県の美術館に寄託したい」との申し出があった。喜んで受けると同時に「福島県立美術館のワイエスの所蔵品と併せ、合同のワイエス展をやろう」と提案した。実現した時は本当に嬉しかった。

この展覧会に関係してもっと嬉しいことがあった。伊藤さんの家を訪ねた時、ワイエスの絵が架かっていた。聞けばNさんが持ってきたという。しかもワイエスの大ファンの彼は、ワイエスのアトリエまで出掛け直に交渉して、制作中だった絵などの購入と併せリトグラフの許可も得たという。この縁でワイエスの「粉ひき小屋」のリトグラフを手にするようになった。展覧会で来日したワイエ

スがサインしている写真と証明書と一緒に絵が届いた時は大きな喜びと同時に何か因縁を感じた。このリトグラフは、今我が家のリビングの一番良いところに架かっている。私にとって何にも勝る宝物だ。そして毎日私の心を「静謐」にしてくれている。

このワイエスに全米が飛び上るようなスキャンダルが起ったのは、ワイエス68歳の一九八五年だった。ワイエスはカール・カーナーが病に倒れると、入れ替わるようにその看病に来るようになった近所のドイツ系農婦・ヘルガ・エステートをモデルにするようになった。ワイエス53歳、ヘルガ38歳だった。後にヘルガシリズと言われる彼女の裸婦像な

どを描いた作品は15年間で二四〇点に上ったが、一切公表されずにいた。有能な秘書であったワイエスの妻・ベッツィもヘルガの夫も知らなかった。このため二人のことが判明すると「世紀の密会」とスキャンダラスに報道され、「TIME」の表紙にまでなった。ワイエスはクリスティーナの葬儀で出会った14歳の少女シリ・エリクソンも描いていたが、彼女が成人するまでこちらも公表しなかった。ワイエスは、老いてゆくヘルガと成人してゆくシリと二人の女性をひっそりと描き続けていたのだ。このことについてワイエスは、妻のベッツィが「異性のヌードを描く時は、私に見えない処でやると言ったから」と

説明している。「なるほど」と思ったが、何よりもこの存在感到溢れるモデルを得て、ワイエスは何物にも邪魔されずモデルと対峙したかったのだらうと私は思っている。この事件がきっかけでワイエスの作品はすべて「ワイエスコレクション」として夫婦の共同の管理となり、ワイエス本人でも勝手に売却出来なくなったとN氏から聞いた時は、「見事な報復だ」と唸った。

ワイエスに関して思い残していることがある。それは私が知事に就任した直後に新潟県立近代美術館が長岡市にオープンしたが、この美術館は大光銀行の美術コレクションを引き継いでいた。このコレクションを作り上げた

駒形十吉氏は素晴らしい目を持ったコレクターであったが、銀行経営では躓いてしまった。銀行再建の条件としてコレクションを売却しなければならなくなったのだが、その半分を買い取ったのが新潟県だった。残りは設立間もない近県の県立美術館等の目玉所蔵品として買い取られていった。駒形さんは長岡現代美術展を開催し、無名ながら有望と見た若手画家を公開での作品制作で競わせた。その中には平山郁夫さんや加山又造さんがいた。近代美術館のパーティだったろうか加山さんにお会いした時「大光コレクションの中にワイエスの絵がありました。水の中の落ち葉の上に氷が張っている絵で、大変感動し

ました。もう一度見たいと思っただけなのですが、どこにあるかわかりますか？」という問いだった。その後調べてみると、一般的にワイエスの日本での最初の展覧会は一九七四年に東京国立近代美術館で開かれた「アンドリュ・ワイエス展」であると言われる中で、一九六九年に長岡現代美術館では「ポッチオーニとワイエス」という展覧会を開いており、この時一点ながら展示されたのがワイエスの「薄氷」という作品だったということが分かった。しかし、未だにその行方は分からず、加山さんの宿題に答えられずにいる。当時大光銀行の再建を私は日銀で担当した。処分する大光コレクションのリストも見ていた。「へ

ー、随分良い絵を沢山持っているんだ。県は半分と言わず全部買えば良いのに・・・」などと言っていた。将来自分が知事になり県立美術館の管理者になるとは知らずに・・・。

人生も残り少なくなったが、元氣なうちにワイエスを訪ねる旅に出かけたいと熱望している。クッシングで遠くにオルソンハウスを見ながら「クリスティーナの世界」の風景を写真に撮りたいからだ。オルソンハウスには、もうクリスティーナもアルヴァロもいないが、幸い建物は文化財として保護されている。その近くにオルソンハウスの住人二人の傍にワイエスも眠っている。

(平成29年10月30日)